



写真等無断転載禁止

2024. 1 1. 7 発行 ニュースレター第 3 2 7 号

〒262-0019 千葉県花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com, Home Page: <http://www.ceic.info/>

下大和田谷津のニホンリス健全！

千葉県では県内で絶滅や減少の恐れがある生物をリストアップしたレッドデータリスト (RDL) を約 5 年ごと、リストとともに生態や生息生育状況をまとめたレッドデータブック (RDB) を約 10 年ごとに公開しています (レッドデータブック・リスト/千葉県 (chiba.lg.jp))。私は 2001 年から RDL・RDB の作成に関わり、県内のニホンリス (*Sciurus lis*, 以下リスと略記) の生息状況を調査し報告してきました。このことはセンターのニューズレター第 273 号 (矢竹 2020) にも掲載して頂きました。詳細は文末の引用文献: 矢竹ほか (2005・2011・2020) は千葉県中央博物館のホームページ (<https://www.chiba-museum.or.jp/NATURAL/research/publication/>)、矢竹 (2012) は哺乳類学会のホームページ (<https://www.mammalogy.jp/journal/mammalian-science.html>) から御覧下さい。

昨年度から RDB 改訂の検討会が始まり、リスの調査を実施中です。調査は県内全域を対象に生息の有無を現地調査するもので、生息は主にマツ類やオニグルミの食痕 (齧られた食べ痕) により確認します。調査の単位は約 1×1km のメッシュとし、生息メッシュ・非生息メッシュの数を集計します。

現在、県北部から調査を始めていますが、2024 年 9 月 29 日に下大和田谷津でアカマツ球果 (マツボックリ) の食痕 (写真) が見つかり、リスの生息を確認することができました。ここでは網代春男さんが 2019 年 10 月 14 日にリスを目撃し写真も撮られています。リスはマツ球果の鱗片と言われる部分を齧り取り、内側の種子 (タネ) を食べ、写真のような球果の軸だけになった食痕が残ります (その形からエビフライとも言われています)。食痕の見つかったアカマツはわずか 2 本で大木でもなく、周辺にもマツは

我孫子市 矢竹 一穂

見当たらず本稿タイトルに健全とは書いたものの今後の存続が懸念されます。まだ調査の途中ですが、既に前回調査では生息が確認されたものの、今回は生息が確認されなくなってしまった場所もあり、この下大和田谷津の地がリスにとってだけではなく、他の生物にとっても残された貴重な生息生育環境であると思います。

RDB のリス調査は広域の調査ですので正直見落としもあり、これまでも下大和田谷津のように生息の情報を頂いたこともあります。ご自



下大和田谷津で見つかったマツ球果の食痕

宅周辺などでリスを見かけた・痕跡があった場合お知らせ頂けると、ありがたいです。

引用文献: 矢竹 (2012) 千葉県南部におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の生息状況の変遷. 哺乳類科学 52:215-222. 矢竹ほか (2005) 千葉県におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の分布状況. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 8:41-48. 同 (2011) 千葉県におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の生息状況の変遷. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 11:19-30. 同 (2020) 千葉県におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の生息状況 2001~2019 年の変遷. 千葉県立中央博物館研究報告 11:19-30. 矢竹 (2020) 千葉県のニホンリスの現状. ちば環境情報センターニュースレター第 273 号.

谷津田に忍び寄る黒い影 その 2 YPP 活動現場の移り変わり

千葉市緑区 高山 邦明

前回のニュースレター 326 号 (2024 年 10 月発行) では農家が急減し、耕作放棄地が増えている千葉市の農業が置かれた厳しい状況をご紹介しました。では、ちば環

境情報センターの谷津田プレーランドプロジェクト (YPP) の活動が行われてきた千葉市緑区の下大和田や小山では実際にどのような変化があったのでしょうか？

下大和田の谷津は昭和 40 年代に大規模な開発計画が持ち上がり、土地のほとんどが事業者を買収されました。ほとんどの田んぼは耕作放棄され、私たちが自然観察活動を始めた時点で既に広大なヨシ原が広がり、その中で点々と孤立した谷津田で地元の方が細々と米づくりをされているだけでした。その中の一つの田んぼで 2001 年に地元の方が米作りを止めるタイミングでそこを引き継いで YPP が活動を始めました。YPP の田んぼの周辺では当時、4 軒の農家が米づくりをされていましたが、その後、ご高齢などの理由により、皆さん耕作をお辞めになっていらっしゃいます。米づくりを教えてくださいました方の中にはお亡くなりになった方も複数いらっしゃり、寂しいかぎりです。さらに放棄された田んぼのうちの一つは YPP で引き受けて米作りを続けていましたが他の田んぼはヨシ原となってしまいました。さらに昨年、新たな開発計画が持ち上がったために今年は私たちが関わる田んぼで米づくりができなくなりました。みんなで楽しみ、汗を流した場所はあっという間に雑草だらけになってしまい、とても残念です。稲株の間を元気に泳いでいたメダカや真冬に田んぼに産卵するニホンアカガエルがどうなるのか心配です。



下大和田と異なり、小山では谷津に地元の方が暮らし、住居の目の前に田んぼが細長く広がっています。村田川の支流の谷津の奥に位置する小山は谷の幅が狭く、田んぼが泥深いこともあって耕地整理が難しく、活動を始めた約 20 年前の時点で既に耕作放棄されてヨシ原となっている田んぼがいくつかありました。YPP 小

山では、地元の方をお願いしてヨシ原となっていた場所を開墾して田んぼに戻すことからスタートしました。その後、地元の小学校 2 校から児童に米づくりの体験をさせたいとの希望が寄せられ、親御さんたちと一緒にさらに田んぼを復活させました。その後、下大和田同様、周辺で耕作をおやめになる農家が次々と現れ、YPP でそのうち 2 軒の田んぼを引き受けました。さらに生じた耕作中止の田は新たに小山で活動をはじめた NGO の方が引き継いでくださり、さらに耕作放棄地を復田して米づくりを始めたグループもあって、田んぼの面積は活動を始めた頃よりも逆に増えています。



高齢化と耕作放棄が進む中、下大和田や小山では私たちの活動があったために谷津田を維持することができましたが、そのような場所は千葉市内や県内のごく一部で、新たな耕作放棄田は次々と荒れていきます。実際、車を走らせていると前年までは田植えが行われた田んぼが雑草だらけになっている風景をよく見かけ、その数が最近特に増えていることを感じます。荒れ地は産廃や残土の処分場となったり、ソーラー発電所となったりしているケースも多く、長年続いてきた谷津田の環境や自然の喪失が急ピッチで進んでいます。

大規模な開発計画は注目を浴びやすいのですが、農家の高齢化に伴う谷津田の改変は、静かに、広範囲で、個々の規模は小さくても全体としては広い面積に進行しています。

今回は危機的な状況にある谷津田環境の維持、復活にどのように取り組むのかについて、YPP の活動実績を振り返りながら見ていきたいと思います。

下大和田水質調査報告 第5回

今回は 2023 年度の調査報告となります。

前回の報告で CEIC の水田の調査地点を fig1～fig6 とし、それぞれ 1 年分の調査結果を表にしてご報告するつもりでしたが、それでは年間の変化がわかりづらいのではないかと思います、調査項目ごとにグラフ化して周年変化がわかりやすいように工夫してみました。そのため調査地点名は簡素化し、

千葉市稲毛区 新井 桂二

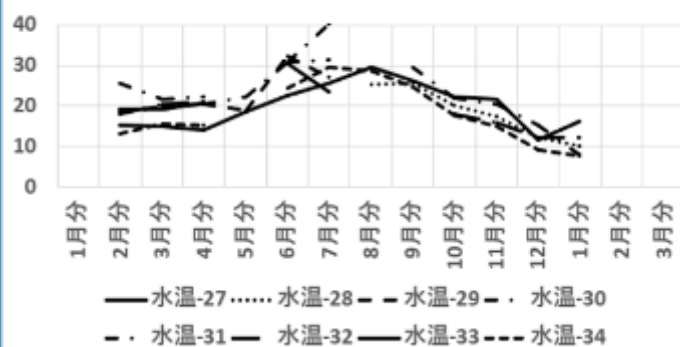
fig1～fig6 はそのまま 1～6 としました。表をご覧になりたい方は CEIC のメール（下記の*）でお申込みいただければ公開いたします。

それでは報告を始めます。比較対照のため CEIC の水田とともに茂原市上太田の商業水田の資料も併記します。考察等は次回に回します。

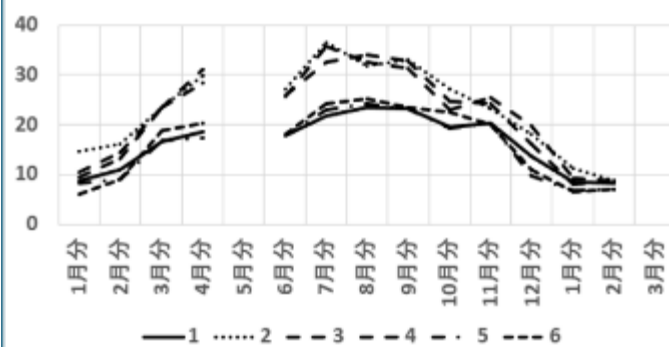
*yatsudasukisuki@gmail.com

下大和田水質調査報告第5回 資料1

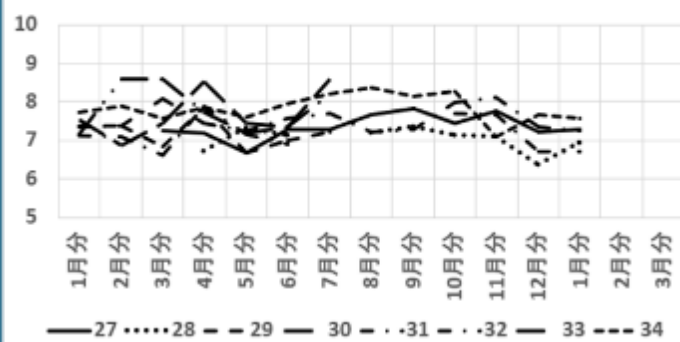
上太田 水温



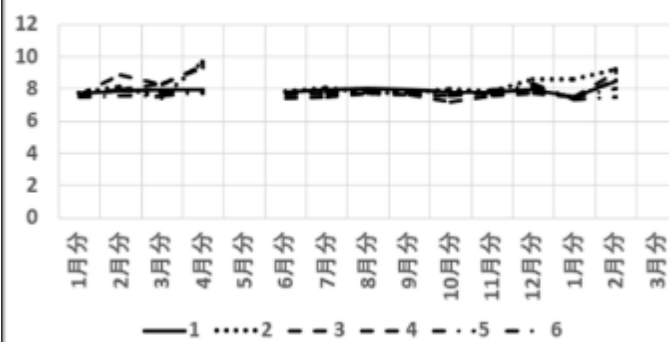
CEIC 水温



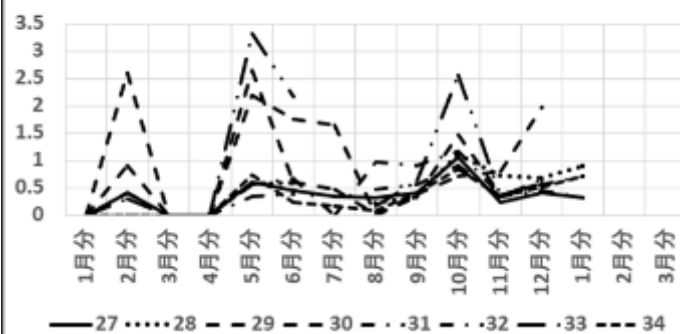
上太田 pH



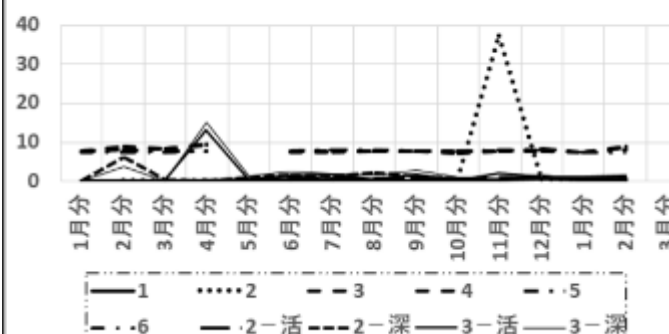
CEIC pH



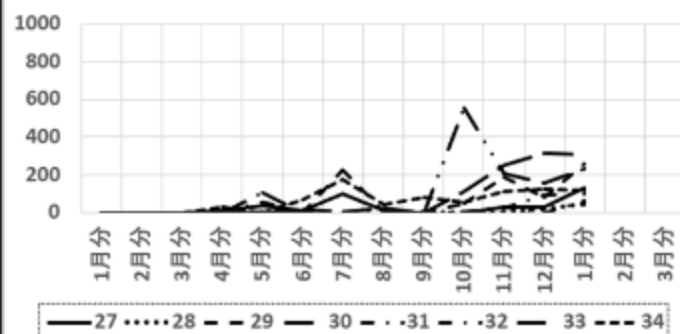
上太田 アンモニウムイオン



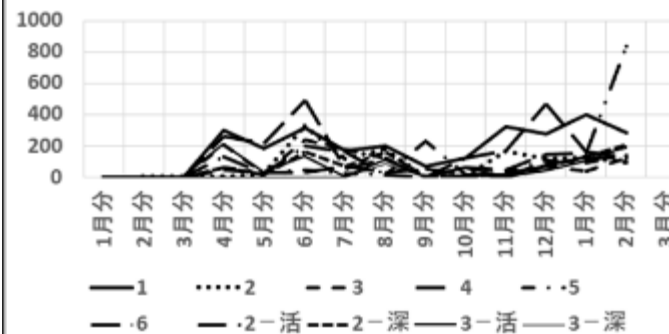
CEIC アンモニウムイオン



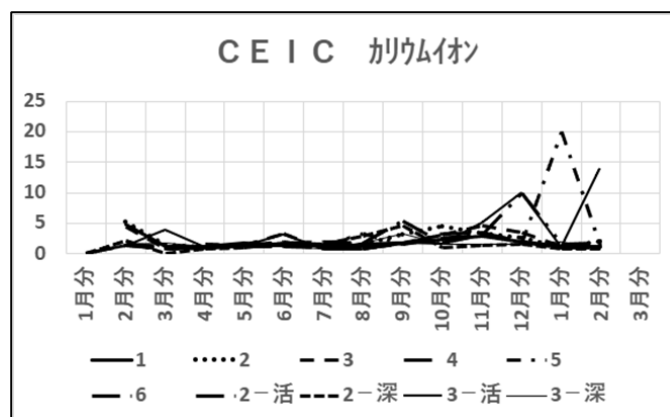
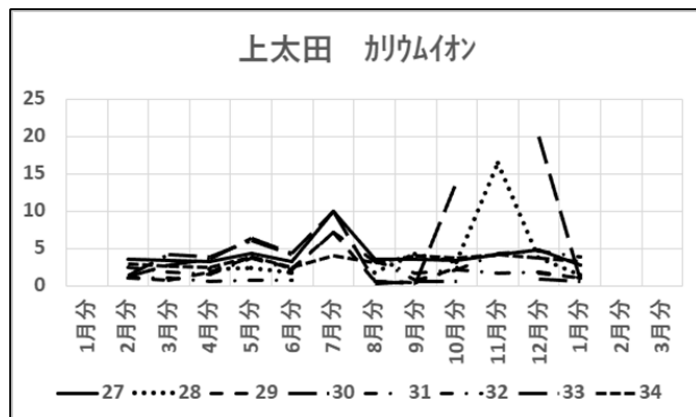
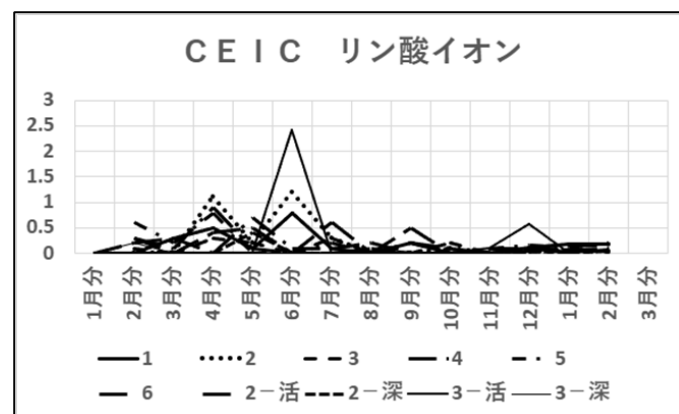
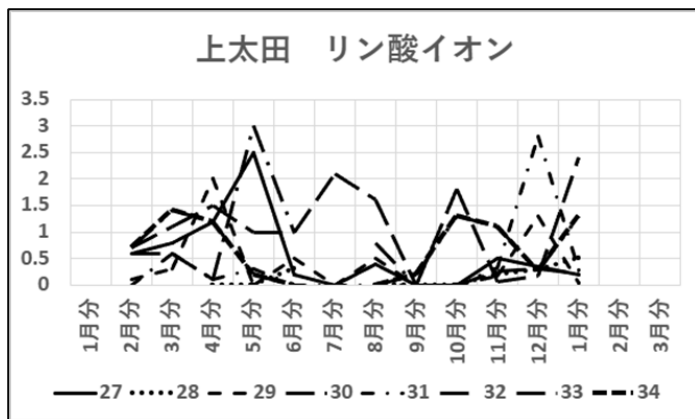
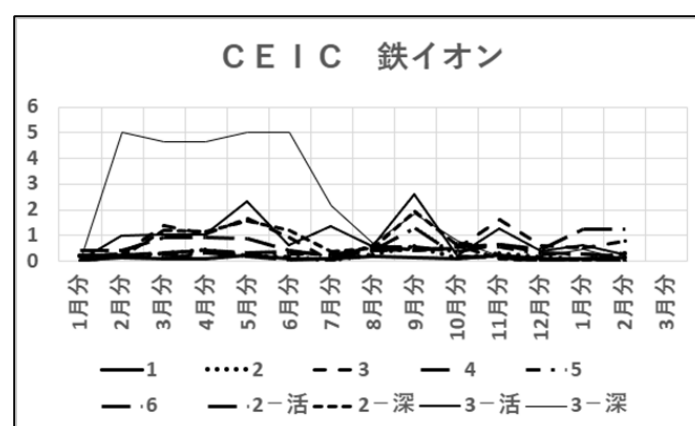
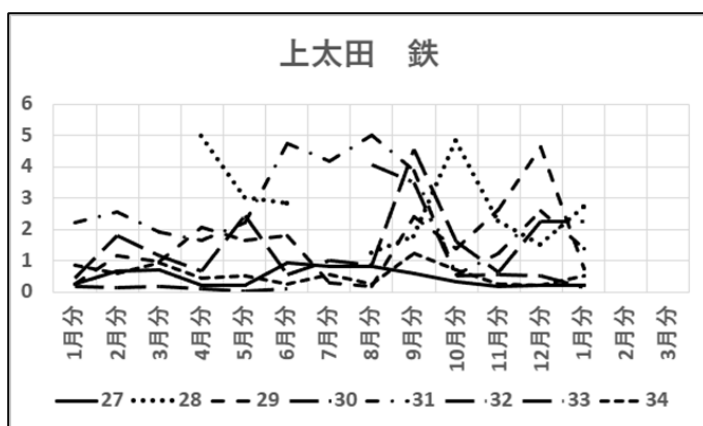
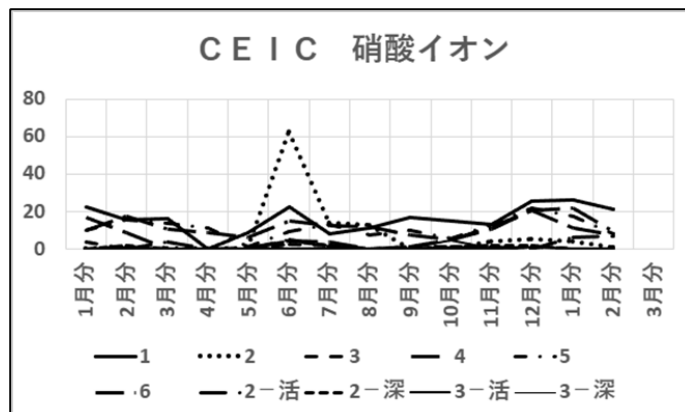
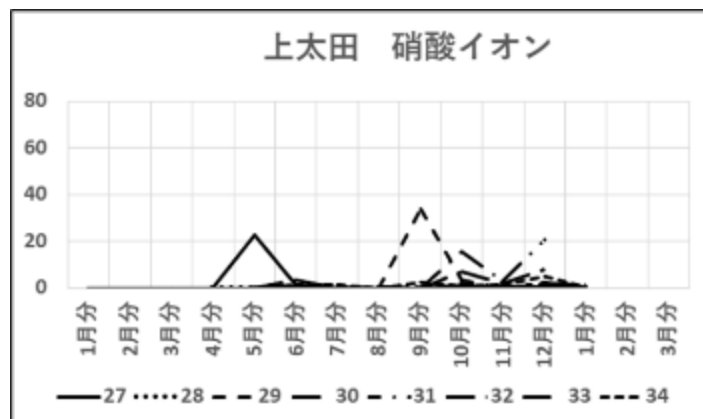
上太田 亜硝酸イオン



CEIC 亜硝酸イオン



下大和田水質調査報告第5回 資料2



お米にまつわるミャンマーの話 第 10 回

～世界遺産「バガン」に住む幸福な雀たち～ 前編

千葉市若葉区 岩沢 久美子

「令和の米騒動」と言われた今年の米不足も、やっと新米が出始め落ち着き始めました。それでも、お米の値段がまだ高いなあと感じます。しかしながら、日本人の3倍も米を消費するミャンマーでは、内戦と洪水被害で米の価格が3倍にもなっていると聞いており、あまり贅沢は言えないなと思ってしまいます。

ところで、私がミャンマーに暮らしていた時、心に残る風景の一つが朝の托鉢です。僧侶や小僧達が大きな壺を持ち、行列になって裸足で街を歩き回り、人々からご飯の寄付を集める姿をよく見かけました。寄付する人々は、鍋を脇に抱えたり、中には数名のグループで大鍋に炊いたご飯を歩道にテーブルを置いて、僧侶たちに次々にご飯を入れる人たちもいます。日中は騒々しいヤンゴンにおいて、早朝の少し澄んだ空気の中で行われる托鉢の光景は、そこだけ時間がゆったりと流れているようななんとも情緒のあるものでした。



バガンのパゴダ。このような仏塔群が親の仇のように延々と続く

そんなお米と仏教をこよなく愛するミャンマーですが、世界三大仏教遺跡の一つがミャンマーにあることをご存知でしょうか？有名なカンボジアのアンコールワット遺跡、インドネシアのボロブドゥール遺跡に加えて、3つ目の仏教遺跡がミャンマーにあるバガン遺跡です。他の2つの仏教遺跡が一つの大きな建造物で有名なのに対し、バガンは12平方キロメートルほどの土地に3000を超えるという大小様々なパゴダ（仏塔）や寺院が林立しているのが特徴です。バガンはミャンマーを縦断するエーヤワデ

イー川という大きな川沿いにありますが、年間通して気温が高い中央乾燥平野と言う決して優しいとは言えない気候にあります。そんな果てしなく広がる乾いた平原に天に向かって突き出た夥しい数の仏塔や寺院は、狂気すら感じる様相を呈しています。バガンになぜこんなに多くの仏塔・寺院が建造されたかということ、この地はミャンマー最初の統一王朝パガン朝の首都であり、これらの仏塔や寺院はパガン朝時代、11～13世紀にかけて造られたそうです。その中には「ビルマのウェストミンスター寺院」と称される美しい建築様式が特徴のアーナンダ寺院のような国王や王族により建造された大型の寺院・仏塔も多くありますが、それ以外にも地域の有力者の寄進によるものも多くあり、さらに小規模な仏塔等は文字通り身を削って庶民が建てたものもあると考えているそうです。

そのためもあってか、バガンは都が他の地に遷都した後も、絶えることなく信仰の拠点として栄え、現在に至るまで仏教の聖地として機能しているいわゆる「生きた遺跡」であることも大きな特徴の一つです。2019年にユネスコの世界遺産にも登録され、国内外から多くの観光客が訪れていたバガンですが、ミャンマーの人々は今も遺跡を楽しむだけでなく、仏教施設として仏塔や寺院をお参りします。

私が家族旅行でバガンを訪れたのは、ミャンマーに移って2年目の2018年8月でした。ミャンマー最大の観光名所の訪問を目的に旅行を計画していたのですが、バガンに行く話をミャンマー人同僚にしたところ、敬虔な仏教徒である彼女から、「バガンに行くなら、絶対4つのパゴダ（仏塔）巡りをするべき。」と言われました。バガンの4つのパゴダなど、ガイドブックには記載がなく、なんのことだろうと聞いてみると、ミャンマー人の中ではバガンにある4つのパゴダを1日で回ってお供え物をするという1つ願い事が叶うと考えられているそうです。良く分からないけど、せっかく行くのだからミャンマー人に倣った観光をしたほうが良いだろう、それになんとかミッション性があって面白そうと思い、詳しい方法を教えてもらい、四つのパゴダが書かれたメモを携えてバガン旅行に臨みました。

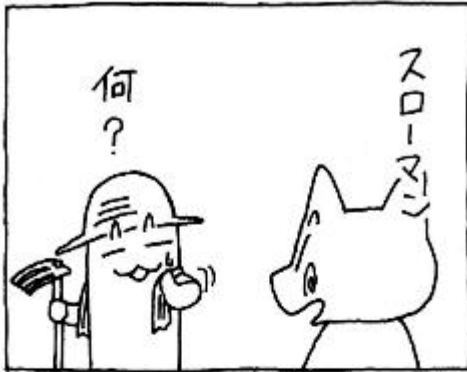
新浜の話 81 ～三番瀬円卓会議～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

三番瀬円卓会議（正しくは三番瀬再生計画検討会議）は、2002年1月から2004年1月まで、千葉県が行った検討会です。私は鳥類の専門家として、当

初、委員をされた山階鳥類研究所の尾崎清明さんの後を受けて招聘されました。薄れる記憶の中、きちんと紹介できるかあやしいのですけれど。

スローマン^{作：7月 あきこ} ④5



経営の神様 松下幸之助は小卒ですね

【発送お手伝いのお願い】

ニュースレター 2024 年 12 月 号 (第328号)は、12月 6日(金)10時から千葉市民活動支援センターで発送作業予定です。

編集後記: 今年も 2025 年のカレンダーを作成いたしましたので、会員の皆さんにお送りします。長きにわたり活動が続けられたのも、当会を支え協力して下さった皆様のおかげと感謝しております。開発計画のため、残念ながら今年は米づくりができませんでしたが、来年は休耕田を復田し、新たな谷津田で生きものたちの米づくりを行う予定です。今後ともご支援よろしくお願いいたします。 mud-skipper

堂本暁子知事のいわば「鶴の一声」で、三番瀬の埋立計画がいったん白紙に戻された後、どのように收拾するか、その具体的な対策を話し合うというのが円卓会議です。利害関係者や学識経験者、行政関連のみならず、環境保護団体や市民、学生をまじえて、広い視野で話し合うという画期的なものでした。委員 24 名は埋立・開発促進を希望する方から、干潟の埋立は 1 m² たりとも認めないという方までさまざま。立場も主張も異なる方々が、同じ方向や共通した方策はないかと誠実に意見を交わす会議への参加体験を、私はありがたく思っています。

当初の円卓会議は、私が参加した 10 月ごろには既に専門家会議と海域・護岸陸域の 2 つの小委員会があり、更に小委員会の下部組織としてワーキンググループ (WG) がいくつもできました。行徳鳥獣保護区に関する論議は海域にも陸域にも属し、更に WG のいくつかにも関連するので、おおむね 1 回ペースの全体会議に加えてそれぞれの会合が月 1~2 回あり、会議が週 4 回ということも。座長の磯部雅彦教授から、「ゼミの学生より蓮尾さんと会う方が多いかも」と言われたほど。18~21 時まで、傍聴の方々からのご意見をも交え、白熱した議論が続くしんどいものでした。

三番瀬円卓会議をネットで見ると、比較的最初の方に「蓮尾純子委員の「埋め立て賛成発言」で土砂投入論議にピリオド」という記事があります。この記事を読み返すたびに、身がすくむ思いがします。浦安と市川の市境にあたる猫実川河口への土砂投入を認めるべきか、否かという議論の場でした。議論が白熱し、「生きものの命を犠牲にする土砂投入は認められない」との論で対立が激化した時、「行徳保護区での管理や改善策のために草をはじめ多くの生きものを犠牲にしている。猫実川の河口部に土砂を入れて浅くすることは干潟の改善につながると思う。人が手を加えて環境を改善することの意義も認めてほしい」という意味での発言でした。

発言後、顔なじみの記者さんから「蓮尾さんはいつ大浜さんと袂を分かれたんですか？」と聞かれ、驚きました。毛頭そんな意図はなく、信ずるところを述べたつもりでしたから。しかしこれは、1 寸たりとも埋立は認められない、という自然保護関係の諸団体に対する裏切り行為となりました。

同じ立場、同じ議論があったとしたら、私はたぶん同じ発言をすると思います。自身の生存や生活をも含めて、ヒトが環境に与える影響は多大なもの、それでもその時々最善と思われる行動をとって、環境の改善につなげることは可能。それが生きものの命を奪ったとしても。人新世ということばが普及しはじめた現在ではなおのこと、それまで目にしてきた埋立工事と、それに伴う干潟環境の小変化を考えると、良心に恥じる発言とは思っていません。

円卓会議は目くらまし、壮大な予算の無駄遣い、結局は共通認識など生まれなかった、といった見方もできます。しかし、干潟や生きものものの大切さが一般に浸透しはじめるきっかけにはなりました。

会議の都度、アセス会社等からの膨大な資料が配布され、読んで理解するだけでも相当なエネルギーを要するものでした。熱心な傍聴の方々をみても、干潟の存続がほんとうに大事な問題になったのだ、ということを今更ながらに実感しました。浦安埋立地先端でコロニー繁殖していたコアジサシのコロニー見学会も催され、大黒柱さんたちにもずいぶんお世話になりました。

＜下大和田での活動＞ 写真：田中正彦

稔の秋。昨年は千葉県生物学会と協賛でキノコ観察会を実施しました。例年ですとコシヒカリの稲刈り・脱穀が終わり秋の恵を感じる頃ですが、今年は米づくりができず淋しい状況です。

最初森に入りましたが、枯れたコナラの大木からの落枝の危険があり、コースを変えての観察になりました。クヌギレストランにはオオスズメバチが 6~7 頭集まって樹液を吸っていましたが、危険なのでみんなで離れたところから観察しました。その傍らで大きなクロコノマチョウが出現して皆大喜び。

手入れをしていない田んぼの畔には雑草が生い茂っていましたが、これがまた面白い。いつもは刈り取られていて見られないような植物がたくさんあって最初の 30 分ほどはそれをじっくり観察。田んぼにはガマやハスが広がっていましたが、あれほど水面を覆っていたヒシは畦際にあるくらいでほとんど見られなくなっていました。

再び森に入ると、雨の影響もあったのか色とりどりのキノコが足元に広がっていました。木にぶら下がりオレンジ色に熟したカラスウリもいっぱい。スズメウリやヤマノイモのむかごもたくさんあって、ちょっぴり秋の恵を味わいました。

記念写真を撮影して、午後はドローンを使って荒れてしまった田んぼの現状を空撮しました。また、生きもの調査をした大学生によると、メダカがほとんど採集できず、季節的なものか米づくりをしなくなった影響なのか懸念されたとのことでした。

参加者 18 名（大人 11 名、大学生 3 名、高校生 2 名、小学生 1 名、幼児 1 名）

報告：高橋久美子

早朝の雨が上がり、肌寒いくらいの涼しい日でした。長くて厳しい夏だったせいか、植物の勢いが例年以上に強く感じられます。

森の中の下草を刈り、散策しやすいように整えました。ササ、アカメガシワ、ヌルデ等、尽きることを知らないかのようにはびこっています。刈払い機を使い、通路を広げ、鋏やのこぎりで刈り残した木を丁寧に刈っていきました。涼しい日なのに、汗をびっしょりとかいてしまいました。この調子で何回か作業を続け、少しでも森の中を整えていきたいと思います。

黄色からオレンジ色のカラスウリの実がすずなりになり、いろいろなキノコがたくさん生えています。ヤマノイモのむかごもそこかしこにぶら下がっています。森の中は、美しい秋の景色です。

参加者 9 名（大人 7 名、小学生 1 名、幼児 1 名）

報告：高橋久美子

6 日前の日曜日に下草刈りをしました。今日は、その後の続きの作業を行いました。動きやすい季節に、やるだけのことをしておきたいものです。枯れかかり倒木の危険がある木は、市が伐採することになりました。立ち入り禁止にした危険エリアを避けて、台地に上られるように道筋を整えました。

以前、大規模に樹木が伐採された後、トモエソウが繁茂した場所がありますが、その後樹木がうっそうと生い茂り、林床に光が届きにくくなったため、トモエソウの群落は見られなくなっていました。今回はそのあたりの樹木を切り、つる植物などを取り除き日光が林床に届くようにしました。またトモエソウが生えてくることを期待します。



このような地味な作業は、一見つまらないと思われるかもしれませんが、やってみると結構、達成感があります。また、クモなどの小さな動物や勢いのある植物たちに囲まれて何とも言えない癒しを感じて、幸福感に満たされます。小さな生き物が一生懸命に生きている姿を見て、私も日々を大切に生きていきたいと思います。

午後は新しく造った台地上の畑に、玉ねぎの苗とニンニクを移植しました。



参加者9名（大人8名、幼児1名）

<小山町での活動>

☆第 229 回 小山町 YPP「コシヒカリの脱穀」 10月12日(土) 晴れ 報告：たんぼぼ

秋晴れの清々しく気持ちの良い日でした。当初は稲刈りの予定でしたが、雨続きで脱穀が出来なかったもので、脱穀と唐箕がけをしました。今回は谷津田の田んぼの活動にご興味をお持ちの方が一名体験参加されました。谷津田には脱穀のガーコン、ガーコンと唐箕のクルクルという音、そして鳥の楽しそうな声とのハーモニーが響いてオーケストラの演奏のようでした。今年も実ってくれて感謝です。参加者 5 名(大人 5 名)

☆2024 年 10 月 6 日(日)：イノシシが入りはじめた緑米の田んぼの周りにネットを張りました。

10月14日(月・祝日)：土気 NGO の皆さんと一緒にコシヒカリの籾摺りをしました。

【谷津田・季節のたより】 2024 年 10 月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

10/14 今年お米づくりをしなかった田んぼに、ミゾソバがあたり一面に咲いていた。とても美しい。クマバチが蜜を吸いに来ていた。大きくて迫力があるハチである。森の梢にアキアカネのオスが止まっていた。他に見たトンボはマユタテアカネとノシメトンボ。皆秋の装いだった。草むらの中にツチイナゴを発見。こちらまだいぶ枯れた草色になっていた。遠くでモズの高鳴きが聞こえた。まだ気温高めだが秋谷津田に秋が訪れていた。

<小山町> 報告 た：たんぼぼ 高：高山邦明

10/5 セイタカアワダチソウが開花(高) 10/5 和製のセンダングサが咲き始める(高)

10/11 しばらく聞かなかったヒヨドリの声をよく耳にするようになる。渡ってきた模様。朝の気温が低くなり、トンボたちはじっとしている(高)

10/12 ピッ、ピッ、ピッというキビタキの地鳴きが聞こえた(高)

10/16 小学校田んぼの畦がミゾソバの花畑に(た) 10/17 マイ田んぼにヨメナの花があちこちに咲く(た)

10/26 リンドウ広場の紅葉、真っ赤に染まる(た) 10/11 林縁でヤクシソウが鮮やかな黄色の花を開花(高)

【イベントのお知らせ】主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 ,

E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・森と水辺の手入れ

日 時：2024 年 11 月 17 日(日) 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：来年の米づくりに向けて、休耕田の復田作業を行います。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

・森の手入れ

日 時：2024 年 11 月 24 日(日) 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：茂ってきたアカメガシワやヌルデなどのパイオニア植物を整理します。

持ち物：動きやすい服装(長そで長ズボン)、森で活動できる靴、帽子、手袋、飲み物

参加費：無料

・第 299 回 観察会とゴミ拾い

日 時：2024 年 12 月 1 日(日) 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：木々の黄葉を楽しみながら冬越しにやってきた鳥たちを求めて谷津をめぐります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100 円

・第 306 回 下大和田 YPP「収穫祭」

日 時：2024 年 12 月 14 日(土) 10 時 00 分～13 時

場 所：谷津田ビジターセンター(千葉市若葉区中野町 1403 伊勢戸銘木店内)

内 容：下大和田の畑で収穫した有機無農薬栽培のコムギ粉を使って、手作りの窯でピザを焼きます。

持ち物：お皿、コップ、ピザにのせたい具、ほかにも焼きたいものがあればお持ちください。

参加費：500 円(小学生以上)

※ドングリのクラフト体験、谷津田米の販売もあります。フリーマーケットも同時開催 ご家庭で不要になったものや手作り品などお持ちください。参加希望の方は小西までご連絡ください。

小西：メール：yatsudasukisuki@gmail.com 電話：090-7841-7655

<小山町谷津田>

▼第 230 回 小山町 YPP「古代米の脱穀」

日 時：2024 年 11 月 16 日(土) 10 時 00 分～ ☆小雨実施。

※ 参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail: tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい。

